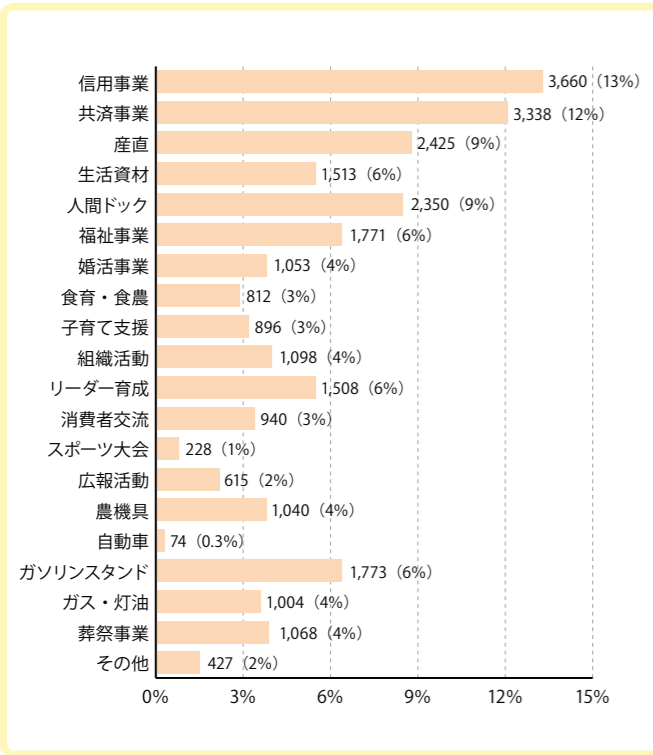


問5 期待するJA事業はどれですか(複数回答)



調査から見える組合員の声

【最も要望が高かった項目】信用事業と共済事業。
【営農経営別】「専業農業」は、信用事業や共済事業のほか、組織活動やリーダー育成などへの期待が大きい。
【生活に関わる事業】農業者はもちろん、農業者以外からの期待も大きい。
【子会社事業】農機具や自動車事業、ガソリンスタンドなど一定の評価がされている。

農水省による調査
 今回のJA意向調査は、営農事業を除外して実施しているが、農水省による農協経済事業に対する調査(平成25年12月実施)では、営農指導事業に対する期待が大きく、最も期待する役割として営農相談との回答が多かった。同時に、営農指導員の訪問頻度が少ないとの回答も多い。

JAの今後の取り組み
 ●総合事業を展開するJAとして、営農事業を支える両輪には、信用・共済事業と生活関連事業であることを意識し事業を進める。
 ●くらしの活動を通じた地域コミュニティの活性化を図る。
 ●JAと子会社が一体となった事業を展開する。
 ●出向く営農指導活動の展開で組合員の期待に応えていく。

組合員の声をJA運営へ
活力あるJAいわて花巻を創る
組合員意向調査

5月末のJA通常総代会で設定した、第3次中期経営計画・営農振興計画の策定にあたり、JAでは農業およびJAを取り巻く環境の変化を踏まえ、さまざまな課題に対応すべく「組合員意向調査」を実施しました。組合員の声・意向をJA事業に反映させ、ともに未来の農業・地域・ひとを創りあげていくことを目指しています。今回の特集では、調査した内容とその結果をお伝えします。

調査対象: 正組合員19,493戸 調査期間: 平成27年7月中旬~7月31日 回収結果: 11,475戸(回収率: 58.9%)

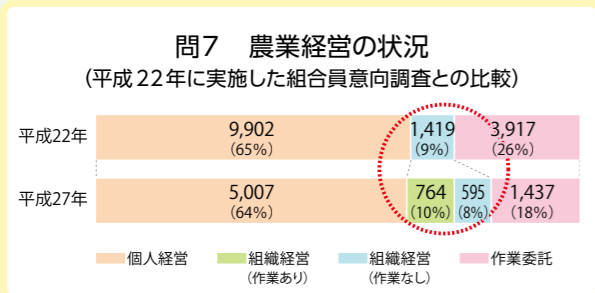
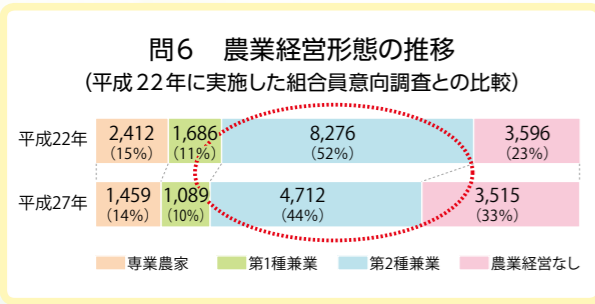
問1の所属支店調査、問2の年齢と性別調査による回答数

地域別	【花巻地域】5,742 (63%)	【北上地域】2,928 (55%)	【西和賀地域】732 (64%)	【遠野地域】2,073 (55%)	
性別	【男性】8,600 (75%)	【女性】1,924 (17%)			
年齢別	【39歳以下】123 (1%)	【40代】560 (5%)	【50代】2,361 (21%)	【60代】4,549 (40%)	【70代以上】3,727 (33%)

※%数値については、小数点以下四捨五入しています ※無回答については記載していません

問6 どのような農業経営形態ですか

問7 どのような農業経営ですか



調査から見える組合員の声

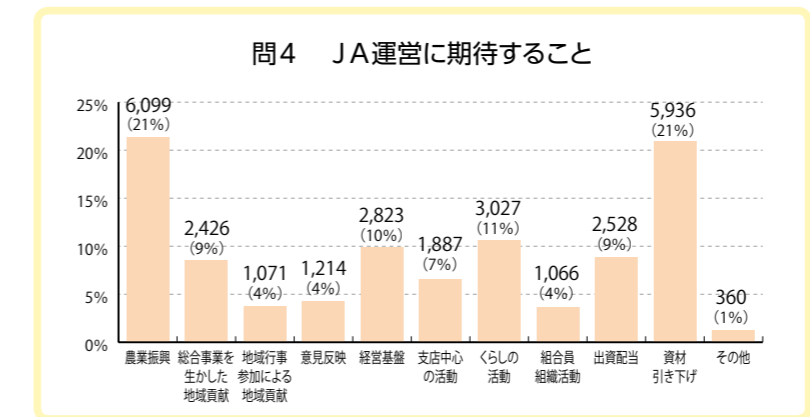
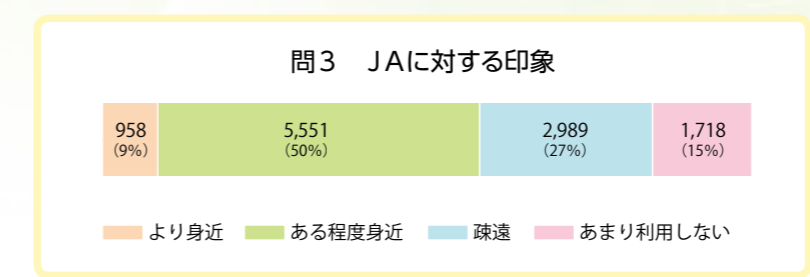
【農業離れ】平成22年と比較して、第2種兼業農家が約10%減少した半面、農業経営なしが10%増加しており、組合員の農業離れが進んでいる。
【年齢構成】60歳以上が全体の約70%を占めており、農業者の高齢化が顕著で、第2種兼業農家を含めても29%と、若者の就農人口が伸び悩んでいる。また、専業および第1種兼業農家の60歳未満の割合は7%となっており、10%を割り込んでいる。
【女性農業者の割合】女性農業者は11%で、岩手県の平均7%(2015農林業センサ調査)を上回っており、当JA管内における女性の農業参画が進んでいる。
【営農組織】農業者のうち、営農組織への参入が17%となっており、そのうち42%は農作業に関わっていない。
【作業委託状況】第2種兼業農家で顕著となっており、28%が営農組織への参加や作業委託している状況にある。

農林業センサ(2015)による調査
 岩手県内の個人経営体が18%減少した一方、組織経営体が2%増加、また、経営体当たりの耕地面積も16%増加しており、着実に営農組織等への移行が進んでいる。

JAの今後の取り組み
 ●集落営農を基本とした「地域ぐるみ農業」を実現するため、集落内の組合員総参加による集落営農ビジョンの話し合いを動きかける。
 ●担い手経営体への農地集積拡大と集落営農組織・法人化を推進。担い手アドバイザーによる経営支援や記帳代行などの農業経営管理支援を強化。受け皿の確保と農業者育成に注力していく。同時に営農組織等への参画による農業離れの阻止も進める。

問3 「JAいわて花巻」をどれくらい身近に感じていますか

問4 今後どのようなJA運営に期待しますか



調査から見える組合員の声

【全地域共通事項】「地域性を活かした農業振興、地域貢献、価格引き下げ」に対する期待が大きい。
【営農経営別】「農業経営なし」は、直接的に農業にかかわる項目に比べ、生活にかかわる項目(地域貢献、くらしの活動)に、より期待している。
【年代別】30代から50代で「安定した経営基盤」に期待している。
【男女別】女性は「生活やくらしに関わる活動(食農・婚活・高齢者福祉など)」に、より期待している。

JAの今後の取り組み
 ●全支店で支店行動計画を実施し、支店を中心とした組合員と地域住民との結びつきを強化する。
 ●地域生産力を生かした振興作物を設定。指導と販売を共に強化する。
 ●水稲肥料成分見直しや省力化栽培技術の普及、農機事業リースなど農業再生コストを低減し、持続可能な農業の確立に取り組む。